

# 報 告 書

平成 23 年 7 月 15 日

岡山県議会議長 河 本 勉 殿

議員氏名 佐藤 真治

派遣の概要は次のとおりでした。

1. 目 的 東日本大震災に関わる調査
2. 派遣場所 宮城県仙台市及び福島県新地町
3. 派遣期間 平成23年 6月5 日 ～ 平成23 年6 月6 日

## 【 報告事項 】

岡山県議会防衛議員連盟の有志で、福島県新地町に。同地には、岡山県からは、日本原駐屯地の自衛隊の方々が、派遣されている。

ちなみに、陸自日本原駐屯地は、岡山県奈義町に位置し、中国地方最大の演習場である日本原演習場も管理している重要な駐屯地である。主な所在部隊は、第13特科隊、第13戦車中隊、第13高射中隊、第14戦車中隊、そしてそれらを支える兵站部隊や業務所隊であるが、今回は、生活支援の部隊として現地に向けて派遣された。

仙台から高速度道路に乗った途端に、景色は一変した。高速道路を挟んで、風景が全く異なる。また、2ヵ月経っても、瓦礫の処理はできていない。ましてや、農地は、見る影もない。



「言葉がない」という言葉があるが、まさに、言葉がない。岡山の沿岸部や平野部の最悪の事態を重ねながら、しかし、阿鼻叫喚のような風景を思うにつけ、写真を撮ることすら憚られる。



新知町の役場で、加藤憲郎町長と佐藤清孝副町長から、自衛隊への感謝と復興にかける思いを込めたお話を伺った。震災時は、議会開会中であつたが、街に、地震そのものによる災害は、大きくなかつたというが、津波による被害の方が、はるかに甚大であつた。

町長さんの「ヘドロを巻き上げて、波がどす黒い高い壁になって一気に向かってくる。」という言葉に、津波のイメージが変わつた。

町の概要や被害の状況等については、添付資料に詳しい。



新地町役場が、災害復興にあたる自衛隊の本部になっている。治安等に問題があるわけではないが、心強いものがある。



岡山の自衛隊が、災害復興の最前線に立って、文字通り陣頭指揮している。



本来であれば、被災者の方、教育関係者からのヒアリング等ができれば良かったのであるが、かえって現場の状況を一番把握しているのは、行政と自衛隊であったかもしれない。行政施設の占拠という見方は全く当たらず、なんとも、自衛隊が頼もしく感じた。

一方で、警察や消防など、自らが被災者となっても復興の最前線に当たっておられる方々

に対する敬意、連携の意識を自衛隊は、しっかり持っている。

連日、ボランティアの方々が入っておられる。



復興支援もさることながら、岡山での災害、有事の場合を想像しながら、話を伺うと、想像することすら、空恐ろしいものがある。

おそらく最悪の事態を想定しなければ、真の防災計画にならないように思った。



全国から、救援物資が集まってきている。一方で、自衛隊の装備なら、炊き出しなどは、現場で十分行える。



6月定例県議会で、特に児島湾締切堤防のことを強く申し上げたのは、愛する地域とこの被災地の風景を重ねない方が難しかったからある。



現場での地道な作業が、続いている。頑張っている自衛隊に対して、いくら学術用語???でも、普通は、「暴力装置」なんて言えるわけがない。

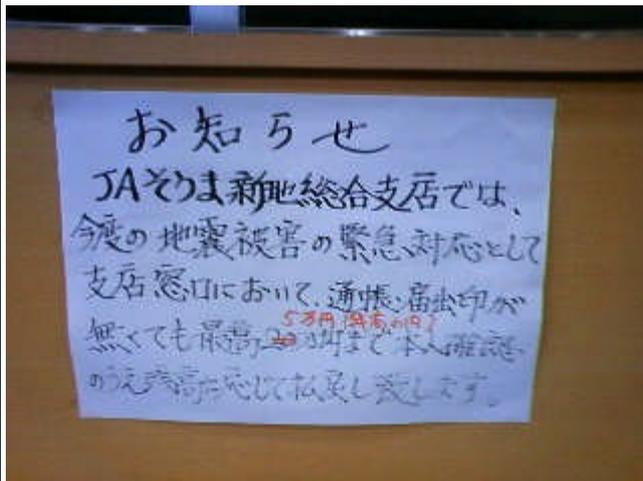


仮設住宅が並んでいる。真横に自衛隊がいる事は、かえって心強いのではないだろうか。





この部隊は、たまたま体育館が使えているが、野営をしている隊もある。だいたい、この建物自体、ブルーシートがかかっているように、一部壊れていて、必ずしも安全とも言えない。



仙台の商店街は、そうは言っても、たいへんに賑やかであった。



さて、翻って、おそらく、直前の5月末に、台風2号が通過した時に、多くの岡山県民の皆様が、やっぱり岡山県は安全だなと思われたに違いないと思う。

しかし、この調査の後、「岡山県地域防災計画」（震災対策編）を読むと、幾つかの問題点の指摘に、本当にこれで良いのか？と、ぞっとするものがある。

## <生活必需品の確保>

阪神・淡路大震災において、平常時の備えの不十分さが指摘されたが、岡山県においても災害の少ない地域という認識が阪神地方にも増して強く、家庭・事業所等における地震に対する生活必需品の備蓄は十分でない。

平常時から県、市町村及び住民は、震災直後に必要となる生活必需品が確保できる体制づくりに留意する必要がある。

## <避難地及び避難路等整備計画>

地震発生時に避難する一次避難地、広域避難地及びこれら避難地に至る避難路は、あらかじめ指定し、標識等によりわかりやすく表示するとともに、防災マップなどにより広報等を通じて住民に周知、徹底し、万々に備えることが必要である。

しかし、避難路については、現在指定されておらず、また、避難地についても表示等が十分とは言えない。

このため、避難地及び避難路を指定した避難計画を策定し重点的に整備する必要がある。

## <建設用資機材の備蓄計画>

資機材の備蓄については、県下20箇所の水防倉庫での水防活動を想定したものを中心としており、阪神・淡路大震災でも明らかになったように、複数の被害が同時・多発的に発生する地震被害に対しては、備蓄資材の内容及び数量等の一層の充実が必要である。

## <港湾施設について>

港湾施設は、災害時の住民の避難、大量の緊急物資の輸送及び震災後の最低限の経済・物流活動の維持に際し海上交通の拠点として、また離島においてはライフラインの拠点として重要な役割を果たさなければならない。

## <津波災害予防計画>

大規模地震に伴う津波災害の恐ろしさについては従来から指摘されており、特に平成5年（1993年）の北海道南西沖地震では、改めてその恐ろしさを認識させられたところであり、本県においても、宝永4年（1707年）、嘉永7年（1854年）など、津波災害の記録がある。

今後は想定される地震に伴う津波の発生について、関係機関の研究に基づき、津波の規模、被害区域などを推測し、その対策について検討する必要がある。

・・・県は、沿岸市に対して津波浸水予測図の作成及び避難誘導標識等の整備の推進を図り、地域住民等に対して津波危険予想地域の周知を行う。

・・・そして、東南海・南海地震防災対策特別措置法に基づき、第4章＝東南海・南海地震防災対策推進計画 で、章を割いているが、同規模の地震が想定される大原断層や中央構造線の一部が震源地になる地震については、章を立てず。

「岡山県地域防災計画」（風水害等対策編）にいたっては、暴風雨等による災害、大雨等による災害、高潮による災害や異常気象による災害を想定しているが、高潮・洪水という言

葉はあっても、津波という言葉がない。

大きな天災が来るはずもないと信じていた岡山県において、備蓄もせず、避難路も確保していない状況で、中央構造線の一部で向かいの四国を震源地にした地震が起きて、瀬戸内海で津波が発生。あるいは、東南海・南海地震で想定以上の津波が来襲。

液状化した児島湾締め切り堤防を津波が破壊。笹が瀬川、倉敷川を海水が逆流。

逃げ惑う状況の中で、ともかく北へ向かおうとする多くの自動車は、岡山バイパスを先頭に大渋滞。・・・想像したくない・・・から、想像しないではすまない。